

本日のおもちかえり  
2018年4月15日

1)ローマ13章を読みましょう。聖書は国に対して私達が課せられている義務と責任について何を語っていますか。

2)なぜ聖書は国籍を天に置く者であっても、この地上の自分の国に対して責任を負うように私達に語りかけているのだと思いますか。なぜ聖書は上に立つ権威に対するリスペクトを勧めているのでしょうか。

3)イエス・キリストはローマ帝国の圧政に対して、そこからの自由を得るために戦おうとはされませんでした。なぜですか？本来、信仰と政治とはどんな関係を保つべきだと思いますか。

4)サムエル記上8章4節から10節を読みましょう。なぜイスラエルの民は自分の上に立つ王を望んだのでしょうか。なぜ、神様は彼らの願いをききいれたのでしょうか。人が人の上に立つ時に、どんなことが起きてきますか。歴史は何を語っていますか？(サムエル記上8章10節)

5)世界を見渡すときに私達はどんな権威の乱用を見ますか。これらのことが現実に起きつつも、その背後には全ての事柄に絶対的な権威をお持ちである神様の存在をあなたは信じますか。聖書の中で起きた国々と王、そしてその背後におられた神様を思い起こしましょう。

6)イザヤ40章21節—26節を読みましょう。イザヤはこの世界に対する神の視点をどう書いていますか。あなたはここからどんな神様の権威を知りますか。人は神の前にいかほどの存在でしょうか。

7)この世の権威を対峙しなければならない時というのはどのような時でしょうか(ルカ13: 32、ヨハネ19章10節—11節、使徒行伝4章19節)。

8) I テモテ2章1節—3節を読みましょう。私達がしなければならないことは何ですか。